

会議等名	平成 28 年 第 3 回海老名市外部評価委員会
日 時	平成 28 年 7 月 19 日 (火) 9 : 00 ~ 12 : 00
場 所	海老名市役所 7 階 7 0 6 会議室
出席者	出席者：阿部委員長、城向副委員長、市川副委員長、霜田委員 高橋委員、杉山委員、大島委員、菅生委員、谷村委員 長谷川委員、山田委員、田中委員（以上 12 名出席） 海老名市：伊藤企画財政課長、江下政策経営担当課長、 横溝主事、中尾主事、木村
<p>1. 開 会 江下政策経営担当課長</p> <p>2. 委員長あいさつ 各グループで評価をいただいたことで、案を作成することができた。この報告書が 市政に有効に使われるように願っている。</p> <p>3. 平成 28 年度外部評価結果報告書（案）について 【委員長】平成 28 年度外部評価結果報告書（案）について事務局より説明いただきたい。 【事務局】提出していただいた、外部評価総括意見を意見別に取りまとめを行った旨を 説明。また、報告書の構成について説明。 【委員長】項目ごとに意見等をいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はじめに 【委員】一般市民が『内部評価』という言葉の意味を分かるようにするべきではないか。 【委員】事業だけでなく、施策についても評価を行っていることを記載すべき。 ・ 外部評価の実施概要 特に意見なし ・ 平成 28 年度外部評価についての総括意見 【委員】取りまとめの仕方について検討が必要ではないか。昨年はどうに行っ たか。委員会として発信するか、委員名を記載し、個々の意見を尊重する構成とす るか。 【事務局】昨年は委員名は記載せず、委員会の意見としてまとめている。どちらの 方法をとするかは検討してもらいたい。 ⇒ 委員会として取りまとめることとすることで決定。 <p>総括意見 1：職員の意識向上について 【委員】海老名独自の取り組みを知ることができた。併せて他市のいいところにつ いては海老名市でも柔軟に取り込む必要がある。 【委員】事業の内容だけでなく、事業を行っている職員の意識に目を向ける必要が あるのではないか。小さな成功例を積み重ねていく必要があるのではないか。 【事務局】小さな成功例や、改善が市民サービスにおいて、どのようにつながるか、</p>	

職員は市民に対して説明するのは基本。まず市民である外部評価委員へ説明を行うのは義務であると考え。意識付けを行っていききたい。

総括意見2：調書での表現の仕方

【委員】市民が見てわかりやすい評価調書となっていない課もあった。成果指標については必ず記入ができると考える。方向性について記入するべきである。

【委員】内部評価、担当部課評価の記入ともに改善は見られるが、成果指標について空欄が散見されたのが残念であった。小さなことでもよいので、行ったことについて記入することで事業をイメージしやすくなると考える。

【事務局】調書の活動指標・成果指標について、「開催をしたから100%」は活動指標。活動を行った結果、どのような成果あったのかを記入するのが成果指標である。職員に対し、十分な説明を行っていききたい。

【委員】行政評価調書を見ても、事業の過程を理解することが難しかった。活動状況をわかりやすく表現してほしい。写真などを使用するのも良いのではないか。職員の表現力不足を感じた。

【事務局】職員として、調書の記載については前年に比べ改善が見られている一方でまだ不十分という意見も頂いた。引き続き意識付けを行っていききたい。

また、行政評価調書で十分に事業内容を理解いただけない（表現できない）部分については、事業所管課から積極的に追加の資料を提出するよう取り組んでいきたい。

総括意見3：評価シートについて

【委員】施策評価シートの選択項目に『その他』が必要ではないか。

【委員】1つの事業の中の主だった取り組みがわかりにくい。事業評価シートはA3用紙1枚にしてもらいたい。

【委員】10年分同じ事業計画には疑問。書き方にも工夫が必要である。『思い』が伝わりにくい。行政評価調書の様式を担当部課の業務に即した書きやすい様式へ変更するべきではないか。

⇒ 上記意見については、外部評価結果報告書には記載せず、来年度以降の課題として、今後外部評価委員会にて検討をしていく。

総括意見4：ヒアリングについて

【委員】次長へのヒアリング時に、内部評価を行った際に議論になった個所を説明してもらうことで、外部評価は行いやすくなるのではないか。

【委員】ヒアリングの場で、より深い議論を行いたかった。

【委員】ヒアリングは今後の事業に反映させるためのものであると考えている。

【事務局】条例において、外部評価は「行政評価の客観性及び信頼性を確保する」とものと位置付けられている。ヒアリング等の中で提案が出てくることは当然であると考え。提案をいただいたものをPDCAサイクルにつなげていくのが行政の役割である。そのため、ヒアリングの際の議論についても、聞かれたことに応えるだけでなく、十分な説明責任を果たすよう、職員には伝えたい。

総括意見5：内部評価について

【委員】担当部課評価の追認に過ぎない事業が散見された。前回は担当部課と違った視点で評価しているように感じたが、今回は担当部課を擁護するような表現が見られたように感じた。

総括意見6：民間との協力

【委員】例えばAEDの講習の講師不足についても、資格のある民間の力を借りることは検討していない。もっと民間の力を借りるという姿勢が見られても良いのではないか。

総括意見7：事業の分け方・評価事業の選定

【委員】「この事業を外部目線でみると、どういった改善が必要か。」などを議論する方が、外部評価を導入した意味があるのではないか。現状では、市民の意見を述べる場とは言いがたい。評価を事業に反映させてほしい。担当課からも、外部評価委員へ意見を求める場面があってもいいのではないか。

【委員】外部評価委員は、事業に対して意見、提案をする場ではないと考えている。行った事業の評価することが外部評価委員の職務ではないのか。

【委員】総合計画の区分で事業を分けているのはわかるが、市民目線ではもっとわかりやすい事業の分け方、総合的な取り組み方が必要なのではないか。例えば、防災と災害の違い、河川の上流と下流の担当課の違いなど。

【委員】国・県からの事業等で、淡々と予算を消化する事業については、評価対象から外すべきではないか。「海老名市をこうしたい、こうなったらもっとよくなる」といったことを、記載することも必要なのではないか。事業をよりよくするための外部評価であるべきだと考える。

【委員】国・県からの事業についても、評価はすべきと考える。行うべきことを的確に行い、行っている際の思いを外部評価委員会では聞き取るべきであると考え

【事務局】完全に国の制度の範囲内で実施している事業と、市が国の事業に上乘せをしている事業もある（例：中学生の医療、障がい者の医療費の上乗せ等）。そういった事業については十分に説明をする必要があると考える。

【委員】計画に基づき、事業が設置されていることを理解できた。全体的な計画を常に意識できるとよいと感じた。

【事務局】行政評価の結果が固まり、PDCAサイクルのC（check）が終わる。A（action）にどのようにつなげるかが重要。10月から翌年度の予算編成を行う。これをどのように活かしていくかを検討する必要がある。総合計画は前期・後期の5年間ずつで計画をしているが、社会の流れや、市民ニーズを都度取り込み、新しい事業についても基本計画のもとに位置付けている。

その他

【委員】民間の意見を取り入れることは、内部で幅広く積極的に取り組んでいく必要があるのではないか。ある担当部課だけでは難しいと考える。

【委員】担当課へ行政評価結果のフィードバックはどのように行う予定か。

【事務局】 予算編成前に、行政評価結果がどうだったのかを事業所管課へフィードバックしている。外部評価委員へもまた、今年度の評価結果を踏まえ、来年度どのように取り組むかを各課で検討し行政評価調書に記入する。去年は評価対象事業からいくつかの事業をピックアップして、ヒアリングを行った。

【委員】 施策評価を次年度以降も行うべきか疑問。

【委員】 施策評価は行うべきであると考え。担当課とは異なった視点からの意見は必ず必要。意見交換ができる場としても次長とのヒアリングは意味があると考え。

【委員】 政策・施策における、事業の適切な配置がなされているかを判断する際には、施策評価を行うしかない。

【事務局】 施策評価は平成 26 年度から開始しており、今年度で全ての施策を評価し終えることとなる。平成 30 年度以降に新たな計画を策定する必要がある。その参考とするために評価をしていただいた。来年度以降の外部評価で何を評価していただくかは今後検討していただく必要がある。

【委員】 広報に載せるほどではないが、小さな成功例をどう周知していくか。外部評価にもそのような役割を持たせることができるのではないか。

4. 今後の課題

- ・ 外部評価を行う事業について精査が必要か。国で決められた事業等については評価対象とするか検討が必要。
- ・ 評価シートの様式を変更するか否か。
- ・ 総括意見については、フリーフォーマットではなく、項目を設けた方がよいか。

5. 今後の予定について

- ・ 外部評価結果報告書の確定方法
三役会を行い、全体会は行わない。確定については三役に一任する。確定後の報告書については各委員へ後日郵送する。
- ・ 総括意見の取りまとめ方
【委員】 総括意見を全体で 3～4 項目に分類した方がよい。
- ・ 職員への報告について
【委員】 昨年、職員に対し外部評価結果を報告する場を設けたが、今年も可能であるか。部長などを含めて、報告をするのは必要だと思っている。
【事務局】 昨年は予算編成会議の際に行った。本年も昨年同様 10 月となっている。前年と同様に行うかはまだ検討していない。今後検討する。

以 上